

関西茶業振興大会開催を通じた 近江の茶のブランド力向上

【普及活動のねらい・対象】

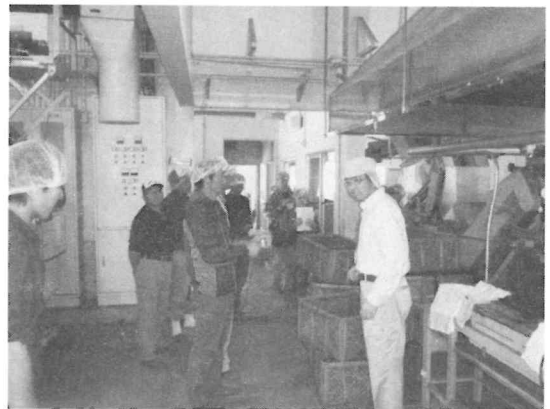
本年度、滋賀県甲賀市土山町において第67回関西茶業振興大会が開催されました。本大会は茶生産技術と品質向上を図るとともに、茶需要の増進に寄与することを目的に、愛知県、岐阜県、三重県、京都府、奈良県、兵庫県および滋賀県の7府県が参加して、毎年各府県持ち回りで開催されるものです。大会は、普通煎茶、かぶせ茶、深蒸し煎茶、玉露、てん茶の5茶種で優劣を競う「茶品評会」、これに出品された茶を全国から集まった茶事業者が入札する「入札販売会」、および「大会式典・関連イベント」で構成されています。

当課では、生産者に対し平素からの栽培技術の再確認とその励行、品評会に対応した製茶技術について支援し、本県の技術レベルと品質の高さを全国の茶事業者をはじめ茶関係者に示すことをねらいとしました。

【普及活動の経過】

本品評会への出品については、土山町および信楽町の茶生産者組織である各町茶業協会が中心となって進められました。このため、各町茶業協会の研修会において、前年度から整枝、施肥、病害虫防除、製茶における注意点と推奨技術の確認を行いました。出品者、JA、甲賀市らとともに出品候補茶園の巡回を何度となく行い、一番茶芽の生育状況を確認しながら、茶園の適正と品質への影響が大きい収穫時期、かぶせ茶の出品については、遮光資材の被覆開始時期や被覆期間等を検討しました。

製茶作業では蒸熱工程(蒸し工程)において、できるだけ熱を加えず短時間で茶葉の酵素を失活させることが重要です。このため、出品者や熟練した生産者とともに、茶葉の蒸熱程度を丹念に確認しながら製茶を行いました。



出品茶本番前の製茶研修会（茶業指導所）

【普及活動の成果】

茶品評会では、生産者はもとより関係機関をあげて出品に取り組んだ結果、普通煎茶の部では信楽町の曾和治彦さん、かぶせ茶の部ではグリーンティ土山の佐伯友樹さんが1位となり農林水産大臣賞を受賞されました。また、その他の生産者も上位入賞を果たされ、市町村別に上位3名の合計点で順位を競う産地賞についても、甲賀市が普通煎茶の部、かぶせ茶の部ともに1位を獲得しました。

京都の茶事業者からは、市場流通している茶の品質もよく、品評会に出品された茶も同様に優れているとの評価をいただきました。これまでの農林水産大臣賞や産地賞の積み重ねによって、ようやく「近江の茶」の品質の高さが茶事業者にも定着してきたように感じられました。この関西茶業振興大会の開催を契機に、本県茶業関係者にはさらなるブランド力の向上と、新たな販路を求める活動の必要性を感じ取ってもらえたと確信しています。（志和）